

私たちはどんな人間か

37期生

I テーマ設定の理由

私達は、現在思春期と呼ばれている年齢である。そして、一般的に思春期は自分というものについて関心がいく時期だといわれている。だから私も自分がいったい何物であるか、どんな人間か、ということについて知りたいと思う。それを科学的方法であるといわれる心理テストによって調べてみようと思った。

II 研究方法

- (1) 対象 30男女全員
- (2) 調査時期 昭和60年7月
- (3) 方法

① 不安度テスト

不安度テストは、個人が抱く不安すなわち身体的、精神的な不安で明らかに意識されるものを測定し、その不安の程度を明らかにすることを目的としたものである。

このテストは、質問があってそれに答える、という形式になっている。(質問紙法)

質問に対して「そう」だと思ったら“そう”の欄に○をつけ、「ちがう」と思ったら“ちがう”の欄に○をつける。もし、どちらにも当てはまらないと思ったら、“そう”“ちがう”の両方の欄に×をつける、という方法で回答する。

それでは、このテストの例をあげてみよう。

	そう	ちがう
1. 手足はいつも、ほどよく暖かい。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 仕事をするとき、たいへん緊張してやります。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. ゲーム(勝負事)には負けるより勝ちたいと思います。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 月に何回か下痢(はらくだし)します。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(質問は、65問ある。)

不安度は○と×の数によって調べることができるが、無回答(×の数)が10個以上ある場合は、信頼性がないとして、そのテストから不安度を調べることはできない。また、うそ得点が11点以上の場合も妥当性がないので扱うことができない。うそ得点とは、例えば「下品な冗談を聞いて笑いますか。」という問いに対して“ちがう”という場合である。もっとも笑わない人が実際にいるかもしれない。すると、その人はうそをついていないこ

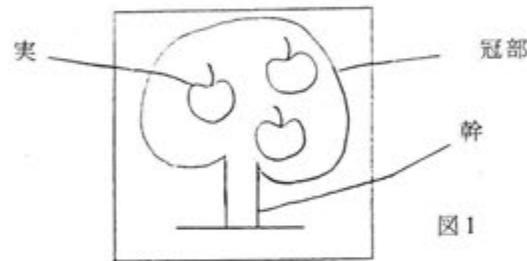
とになるが、たまにそういう人があったとしても例外であり、統計的にはうそ得点と換算してよいのである。

② 樹木画テスト

樹木画テストは、「実のなる木をかきなさい」という質問に対する木を描き、その木の形態、筆圧などから性格判断することが目的である。

診断方法としては、A4の画用紙に4Bの鉛筆を用いて、「実のなる木(実のできる木)を1本かいて下さい」の指示のもとに絵を書いてもらう。その場合、時間や紙の使用方向、消しゴムの使用に制限がないことを注意しておく。

このテストの場合、以上の検査方法からもわかる通り、被検者は描画能力をみるテストと思って、テストに対する偏見を持たない。よってこのテストでは、被検者の絵を通して自発的な表現を必然的に得られるという点で有効である。(投影法)



III 研究結果

(1) 不安度テストについて

① 前に説明した方法で3C全員に不安度テストをしてもらくと、25人の人に信頼性、妥当性があったので、それを表にまとめた。

番号	性別	無回答	うそ得点	不安度	番号	性別	無回答	うそ得点	不安度
1	女	0	5	23	14	女	0	7	19
2	男	0	3	32	15	男	3	5	27
3	男	4	4	20	16	女	1	3	17
4	男	1	3	13	17	男	3	4	8
5	男	0	2	33	18	女	9	4	27
6	男	6	4	22	19	男	4	4	13
7	男	1	4	20	20	男	1	3	8
8	女	2	6	23	21	男	9	1	16
9	男	5	1	20	22	男	5	6	4
10	女	3	6	18	23	男	0	6	20
11	男	2	0	37	24	男	0	2	36
12	女	5	5	10	25	男	3	6	8
13	男	4	2	21	平均				20

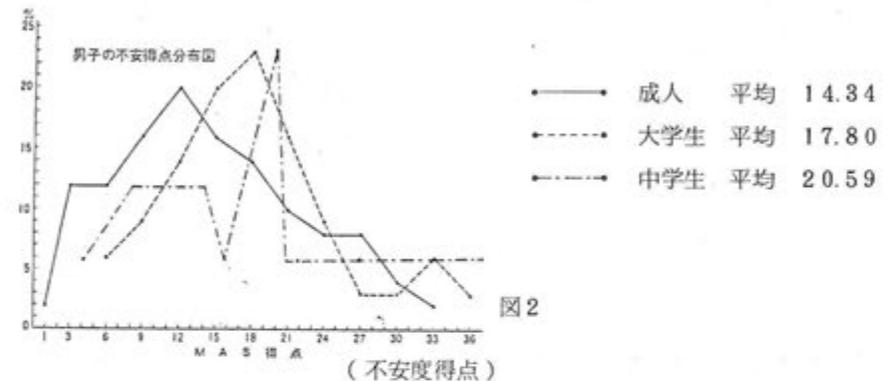
表1 不安度テスト結果

② 得点は不安度によって5段階に分けられているが、一般的に男女とも27点以上は高不安、9点以下は低不安と考えられている。そして、低不安の人は外向的で、高不安の人は内向的で神経質と言われている。

表1の結果から平均を求めると20点であった。従って、クラスでは平均点からみると5段階のうち中間に位置することになるが、2番、5番、11番、24番の人は、高不安で神経質な人ということが言える。一方、17番、20番、22番、25番の人は、低不安であることが分かる。

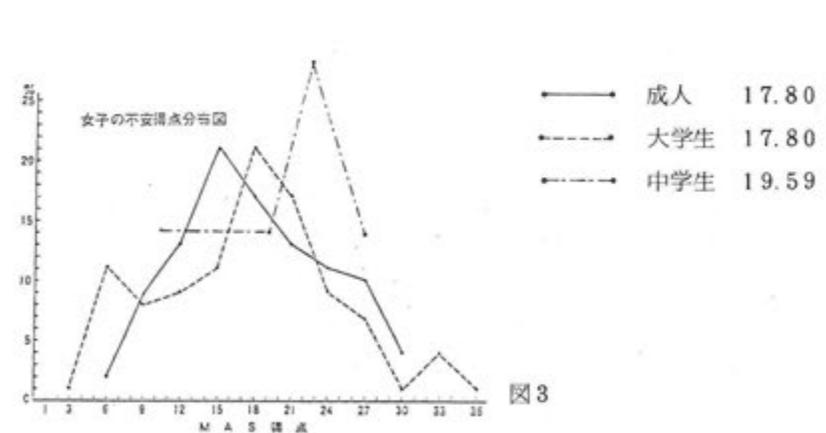
次に男女別に成人と大学生と中学生(3C)の不安得点を比較してみる。

〈男子〉



中学生の不安得点は、モード、平均のどちらでも成人、大学生より高い。そして、中学生、大学生、成人の順になっていることから、やはり青年期は精神状態が不安定になりがちで、その中でも大人へと変わっていく思春期がもっともそういう傾向にあえるといえる。

〈女子〉



女子にも男子と同じことがいえる。

(2) 樹木画テストについて

前に説明した方法で3C全員に樹木画テストをしてもらおうと、それぞれに特色を持った樹木画が描かれていた。すなわち、十人十色といわれるようにいろいろな性格特性があることを示している。ここでは、私達のクラスに特徴的に見られた点を探ってみることにする。

最も広く見られた点として、冠部の中の実、紙の下端から書かれた幹、長い幹と小さな冠部、空間倒置の実、ボール型冠部、などが上げられる。これらは、幼稚さ、退行、紋切り型、自己顕示欲、月並み、近視眼的、などを意味していると考えられる。



図4

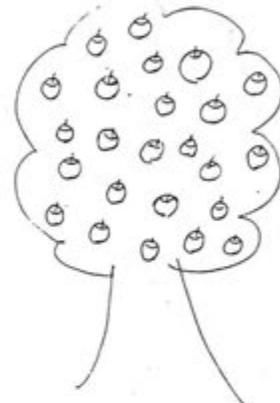


図5

上のものは、私達のクラスに広く見られた点であるが、さらに次のような点が人により特徴的に出ていることが分かった。

① 広い幹の基部、まっすぐで平行な幹、くびれた枝、平たい冠部、弱い筆圧、小さな木、丘の形の地平線

(抑圧的、硬い、消極的、融通性に欠ける)

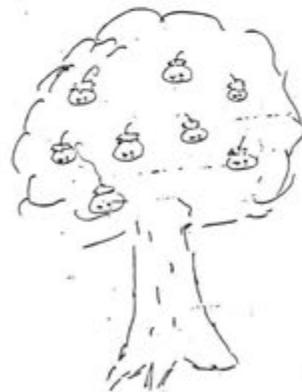


図6

- 弱い筆圧
- 広い幹の基部
- 冠部の中の実
- 紋切り型



図7

- 丘の形の地平線
- まっすぐで平行な幹
- 平たくおさえられた冠部
- 小さい実

② 短い幹、開放型の幹・枝、刈りとられた枝、T字型幹、乱雑な線の冠部
(自信、完成への欲求、意欲、エネルギー)

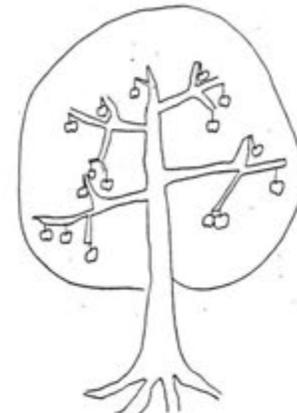


図8

- 枝先開
- 刈りとられた枝
- ふくらんだ枝

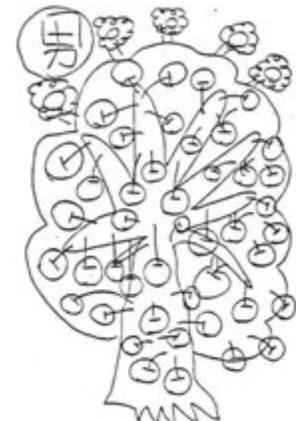


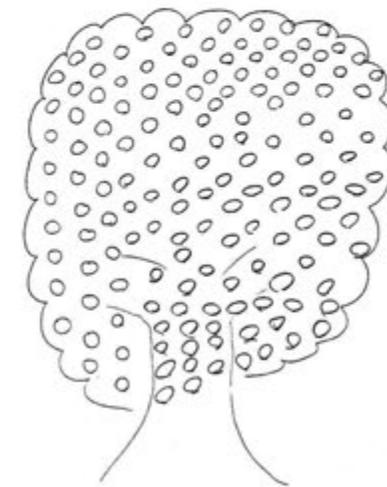
図9

- 中心から放射する枝
- 樹冠から突き出た枝、葉(花様)
- 多数の実

(3) 不安度と性格の關係の分析

樹木画テストが投影法による調査であるのに対して、不安度テストは質問紙法による研究であるから、本人が自分をどのように見ているかによって樹木画テストの結果と必ずしも一致するとは限らない。しかし、ここでは一応、両テストの関連性を考えてみよう。その対象として、不安度の最も低かった人と高かった人を取りあげる。

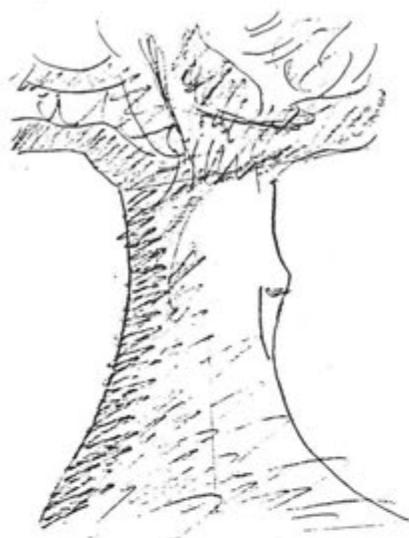
<低不安の人>



- くさび型幹……実際の、現実的
- ボール型冠部……空想的
子供じみてる
- 短い幹……大きさ、自信、うぬぼれ
- 冠部の中の実……幼児性、幼稚

図10

〈高不安の人〉



- 左側の陰影……内向的、もろさ
- 幹のふくらみ……はずかしがり
抑制

図11

この2つの結果については不安度テストと
樹木画テストに相関があると思われる。

Ⅳ 結 論

私達思春期といわれる人間は、自分がどのような人間か、人にどのように思われているのか、自分はこれからどのような人間になっていくのかなど、自分というものに大変関心がある。そこで私は「私たちはどんな人間か」というテーマを設定して、現在実際に心理学で使われている不安度テストと樹木画テストという2種の性格検査を使って、私達のクラスを対象に調査した。その結果、不安度は一般成人や大学生よりやや高いこと、また私達の性格に広く見られる特徴として、子供っぽく幼稚で紋切り型のところがあった。これは身体的に大人に近づいていても、精神的にはまだ成熟していない部分を大きく持っていることを示している。しかし、そうした特徴を広く持ちながらも、人によって積極的でエネルギーにあふれた人と、消極的で硬く、抑圧された人の2種があることが分かった。

Ⅴ 感 想

今までも性格というものに興味があったが、今回の自由研究で少しだがそのことについて知ることができたのでよかったと思う。

しかし、アンケートをとる人数が少なすぎて、不安得点分布図では男子は1人で5.8%、女子では14.0%も示してしまった。そのため、同年代における不安度の男女比較ができなかったのもっと多くアンケートをとっておけばよかったと思う。